

学校関係者と十分に協議し、情緒障がい児等の通級学級のために設置されており、現在、格子状の柵を設置している。

市の防災に対する取組み

朝長 英美 議員

Q 竜巻などの被害に対して幼稚園等で強化ガラスを使用しているのか。また、高齢者施設だけではなく、他の障がい者施設にもスプリングラーの設置を義務付ける必要があるのではないか。

A 小中学校における強化ガラスの使用については、岐阜中学校などの改築の際に使用しており、今後大規模改修のときには強化ガラスを使用していきたい。幼稚園等の施設については、現在建設中の市立認定こども園も強化ガラスを使用することになっており、新たに整備する施設にも使用していきたい。また、障がい者施設へのスプリングラーの設置については、義務付けるべきだと考えており、国においても、原則義務付ける方向で検討されている。



生活・環境

下水道の高度処理はいつ始めるのか

大崎 敏明 議員

Q 下水道処理水は、日量3万トンが森園海岸に放出され、その富栄養が原因となりアオサの異常発生を招いているのではと言われている。平成26年度中に県の「大村湾流域別下水道整備総合計画」が策定され、排出基準がかなり強化される。これに合わせて、市は下水道の高度処理を始めてはどうか。

A 平成26年度末に「大村湾流域別下水道整備総合計画」が策定され、国と協議が行われる。それに基つき、放流水質の目標等が示され、本市の高度処理事業は国庫補助の対象となる。そのため、県から情報を得ながら高度処理の調査研究を始めるとともに、総合計画の結果も踏まえ、早期着工を目指し、高度処理事業を進めていきたいと考えている。

大村湾浄化に向け「期成会」を立ち上げよう

神近 寛 議員

Q 大村湾沿岸自治体5市5町の個人・団体・行政等が、大村湾の浄化対策に長年取り組んできたが、ままならない状況が続いている。そこで、全国閉鎖性海域の環境保全のモデル事業として、大村湾での国営事業を推進するための「大村湾浄化促進期成会」設置に向け、大村市が旗振り役を買って出てはどうか。

A 現在、「大村湾をきれいにする会」において、閉鎖性海域対策のモデルとして調査研究を行うことや調査研究機関の設置などを国に要望しているが、明るい見通しがない状況である。今後、「大村湾をきれいにする会」をどのような形で期成会にするのかを会の方でも協議し、真剣に取り組みたいと思う。



福祉・医療・保健

特別支援教室と支援員の「増」は待たなし

神近 寛 議員

Q 特別に支援を要する知的・自閉・情緒などの障がい児や

要配慮児は全国的にも確実に増加傾向にある。大村では「ひかり教室」の増設と富の原小学校への特別支援教室の拡充を望む声が聞かれる。また、特別支援教育支援員は休憩時間を割くようにして働いているのが現場の実態であり、支援員の大幅な増員は待たなしの状況である。

A 「ひかり教室」については、開設校の選定、教職員の配置などを教育委員会内で検討しており、できれば来年度には開設したいと思っている。また、富の原小学校をはじめとした特別支援教室の拡充については、今後の学校の見通しなど総合的に判断する必要があると考えている。また、特別支援学級の補助員の増員については、来年度の予算編成において協議を行いたいと考えている。

県央バリアフリー促進委員会の提言について

北村 貴寿 議員

Q 先般、同委員会が調査検討を重ね作成された「大村公園のトイレを中心としたバリアフリー化に関する提言書」が市長に提出された。この提言を活かすため、整備設計の前に意見交換を行うべ